

2015 年度第 2 回執行理事会議事録

期 日：2015 年 7 月 25 日（土） 13:00～17:00

場 所：地質学会事務局

出席者：井龍会長 山本副会長 渡部副会長 齋藤常務理事 ウォリス 坂口 杉田 竹内
平田 松田 山路

（事務局）橋辺

欠席者（委任状提出あり）：海野 緒方 中澤 廣木 保柳 星

*定足数（12，委任状含む）に対し，出席者 11 名，委任状 6 名，合計 17 名の出席。

*前回議事録の承認

I 審議事項

1. 長野大会特別講演会「地質地盤情報の整備と法整備」について（齋藤）

執行理事会主催で，学術会議の提言を受けた関係講演会を開催することが提案され承認された。大会の関連行事として開催する。早急に講演会の開催を会員に周知する。報告はニュース誌に掲載して情報共有を図る。

2. 行事関係（竹内）

1) 巡検参加費の学生割引

巡検参加者増加策として，学生の参加者を増やすための割引制度導入が検討された。現在の巡検費用は実費負担に近い額なので，既存のコースでは参加者増加につながるほど効果的な割引は難しい。学生割引のために別途補填するのは巡検参加者増加策の趣旨に合わない。学生向けとして，魅力的な内容とコストのコースを検討してもらう。

2) ポスター賞のエントリー制について

審査負担が過重であるので，エントリー制を導入したいと提案され，了承された。若手，学校，企業等の研究活動の奨励を目的とすることを明示して，自推とする。

3. 「各賞選考規則」の第 8 条と第 9 条の改正について（山路）

小藤文次郎賞の授賞対象者は「重要な発見または独創的な発想を含む論文を発表した会員」と定めてあるが，授賞対象者を明確にし，推薦を増やすために，「重要な発見または独創的な発想を含む，会員が著者の論文」とする。

奨励賞の第 9 条の 2 は「2) 募集開始年 9 月末日で満 35 才未満の会員。筆頭著者であれば共著でもよい。」と定めてあるが，より広範な貢献者を奨励するために「2) 開始年 9 月末日で満 35 才未満の会員を筆頭著者とする論文の，満 35 才未満の共著者全員。」とする。

4. 地質学雑誌，投稿編集出版規則の細則 2 「地質学雑誌特集号刊行までの手順に関する細則」の改正について

現行では，企画提案と原稿を同時に提出することになっている。提案の可否を編集委員会が判断できるように，細則 2.1 を次のように改定する。

「地質学雑誌の特集号の企画は，特集号の代表世話人が「特集号申込書」を編集委員会に提出（郵送あるいは電子メールによる）することで，随時受け付けるものとする。申込書にもとづいて，同委員会は申し込みの受諾の可否を決定し，代表世話人に連絡する。受諾の場合，代表世話人もしくは論文著者は地質学雑誌投稿編集出版規則に従って，構成論文の原稿を電子投稿・査読システ

ムもしくは郵送により原稿を投稿する。受諾通知から4ヶ月以内に全ての構成論文が投稿されない場合、代表世話人は欠けた原稿を企画から除くか、またはその原稿の完成を待つかを判断し、「特集号申込書」を再提出する。」

5. 理事の欠員補充に関する選挙規則第5条10項の改正についての検討(3) (斎藤)

欠員補充のために繰り上げ当選となるよう選挙規則を改定する。選挙規則8条を「選挙管理委員会は当選者とともに、本条10項に沿う補欠者を決定し、総会に報告する」とする。次点候補者不在の場合が起きないように、複数の候補者が立つようにわかりやすく周知する。

6. 二重投稿と不適切なオーサーシップに関して (井龍)

学術会議から3月に「科学研究における健全性について」が公表され、オーサーシップや二重投稿の定義の在り方が示された。オーサーシップや二重投稿の厳格化は世界の趨勢として避けられず、受け入れることにした。具体的な方策は今後検討していくとした。

7. 学術の大型研究計画に関するマスタープランについて

日本学術会議科学者委員会「学術の大型研究計画検討分科会」(相原博昭委員長)から、第23期「学術の大型研究計画に関するマスタープラン」策定にあたってのアンケート調査の依頼があった。会長が原案を準備し、回覧審議することとした。

8. 経産省から地層処分について

意見募集開始の連絡があり、メルマガを通じて会員に周知した。意見を集約して執行理事会で回答を準備する。

9. 9月理事会の審議事項

下記の項目を9月の理事会に諮ることとした。

- ・各賞選考規則の改正
- ・編集出版規則の改正
- ・理事の欠員補充について
- ・たんけんマップについて
- ・県の石について

10. 高等学校の地学教科書

高等学校の地学教科書が出版社によって齟齬があるとの指摘があり、問題点を調査する。

11. 機関デポジット問題

法務委員会からの答申があり執行理事会で受領した。実際の運営への対応策を法務委員会に検討してもらう。

12. 西日本支部のCPD講習会について

6月11-12日に山口大学理学部地球圏システム科学科と共催で「西日本地質講習会」が実施され余剰金が生じた。余剰金は共催相手と分配し、今後の継続を促す。

II 報告事項

1. 全体的報告

1) 選挙管理委員会の発足

- ・常務理事が委員を下記の方々に委嘱することを承認した。

上原康裕 会員 (応用地質), 金澤直人 会員 (中央開発) 高橋 聡 会員 (東大),

佐藤大介 会員 (GSJ), 谷口知寛 会員 (千葉大・院生)

・上記の方々の委員承諾を得て、7月16日に第1回の選挙管理委員会を開催した。委員長に金澤会員を、委員長代行に上原会員を選出した。代議員選挙の告示は、9月10日。

2) 125周年記念事業：125委員会よりの特集号の企画について、メール審議にて了承した。

ただし、以下の2点を要望し、「日本地質学会125周年記念事業 地質学雑誌特集号の基本方針と進め方」との齟齬がないよう要望した。

1. 今後、地質学雑誌の出版形態が大きく変化する可能性がある。これに対し柔軟に対応できる出版計画とする。
2. 特集号企画委員会委員候補については、偏りの無いように幅広い分野の編集体制になるよう配慮すること。

3) 自然史学会連合講演会（三重県総合博物館）での普及行事への参加が呼びかけられた。齋木委員から近畿支部と中部支部に対し、参加者の応募について連絡した。

4) 経産省から地層処分について意見募集開始の連絡があり、メルマガを通じて会員に周知した。

5) 地学オリンピック日本委員会より第8回オリンピックの予選、本選の作問委員の推薦依頼があり、1名を推薦した。

6) 県の石について(斎藤)

各支部の進捗状況が報告された。遅延しており進行を促す。

7) 西日本地質講習会（CPD講習会）の報告

西日本支部と山口大学との共催で「西日本地質講習会」が開催され、技術者を中心に49名の参加者があった。6月11-12日の2日間開催され無事終了した。

2. 運営財政部会：総務委員会（緒方）

<共催・後援依頼，他団体の募集等>

1. 沖縄協会より、「第37回沖縄研究奨励賞」の公募(7/15-9/30, 学会〆切 8/30) → HP, geo-flash, News 掲載
2. 朝日新聞文化財団より朝日賞の推薦依頼(〆切 8/25, 学会〆切 8/20) → HP, geo-flash, News 誌に掲載
3. 東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成の公募(10/9〆切, 学会〆切 8/30) → HP, geo-flash, News 誌に掲載
4. 女性科学者に明るい未来をの会「猿橋賞」の募集, 50歳未満, 自然科学分野の女性研究者(〆切 11/30) → HP, geo-flash, News 誌に掲載
5. 全地連および経済調査会の共催による「地質調査要領説明会」の後援を承諾, 9/30-11/2までの間, 東京をはじめとする全国7か所で8回の説明会を開催する。News 誌8月号に有料の広告を掲載。
6. 地球化学会第62回年会の共催依頼(9/16-18, 横浜国大)を承諾, 一切の負担なし。
7. 第13回高校生科学技術チャレンジ(JSEC2015)の後援を承諾した。また, 第12回高校生科学技術チャレンジ(JSEC2014)についての事業報告があった。
8. 日本科学技術振興財団より, 青少年のための科学の祭典2014の事業報告があった。
9. 東京大学海洋研究所より, 学術研究船「白鳳丸」の平成28年度実施の研究航海に参加して実施する小規模研究募集(期限 9/25), および, 東北海洋生態系調査研究船新青丸共同利

用の公募（期限 9/25）→HP, geo-flash, News 誌に掲載

10. ヒマラヤ野外実習プロジェクト（世話人:吉田勝・在田一則・酒井哲弥）は次回で第 5 回を迎える。4 回までの報告は随時ニュース誌に掲載されている。今後も引き続き学会からの推薦することを了承する。
11. 子供のためのジオカーニバル企画委員会より（代表者 廣木義久）より第 16 回子供のためのジオカーニバル（11/1-2, 大阪市）の後援依頼があり承諾した。

<その他>

1. 海水準変動と氷床の安定性に関する国際研究集会（東大海洋研究所共同利用研究集会）の開催 7/22-24（東大海洋研究所）
2. 学協会役員変更の挨拶：土木学会（新会長廣瀬典昭ほか）、地盤工学会（継続中会長東畑郁生ほか）、無機マテリアル学会（新会長三浦啓一ほか）
3. 会社役員変更の挨拶：賛助会員石油資源開発㈱（会長棚橋祐治，社長渡辺修ほか）、住鋳資源開発㈱（社長岡田和也ほか）

<会員>

- 1) 今月の入会者（108 名）→氏名一覧，別紙回覧

正会員（23 名）：

正(院割)会員（73 名）：

正(学部割)会員（12 名）：

- 2) 今月の退会者（正会員 4 名）

杉山雄一，橋本真樹，最首花恵，佐藤岱生

- 3) 今月の逝去者

名誉会員（1 名）

猪木幸男（2015 年 5 月 9 日 逝去）

正会員（4 名）

赤木三郎（2014/2/5）・小野寺信吾（2014/12/29）・角田寛子（2015/3/17）

竹内一郎（2015/5/1）

- 4) 2015 年 6 月末日会員数

賛助：28，名誉：62，正会員：3680（正会員：3557，院割会員：119，学部割会員：4）

合計 3770（昨年比 -72）

<会計>

特になし

3. 広報部会：広報委員会（坂口・松田）

- ・一家に 1 枚のポスターについて応募したが，不採択となった。構想としては良く，トピック的要素など，高い評価を受けたが，ポスターとした場合の内容表現と，昨年度応募と変わらないとの不採択の理由もついた。

4. 学術研究部会（ウォリス・竹内・中澤）

（1）行事委員会（竹内）

- 1) 長野大会準備状況ほか

全体で 609 名の申し込みがあり，プログラムが決定した。プログラム進行のため，講演時間の厳守を求める。

2) 2016年東京・桜上水大会

日程が 9月10日(土)～12日(月)となり、巡検も11コースが提案され承認された。家族向けのコースが提案あり詳細は今後検討する。

3) 2017年愛媛大会

愛媛大学の会場は、9月15日～18日は会場を抑えてある(日程未定)。鉱物科学会との開催も協議中。

(2) 国際交流委員会 (ウォリス)

1) 台湾地質学会との学術交流協定の締結

・MOUの交換

・台湾地質学会代表者2名が来賓：旅費は自前、宿泊および歓迎会は地質学会がケアする。招待状の発行依頼あり。

2) 海外からのお客様に対し長野市内周辺見学をおこなう。日程は13日午前10時～15時まで。バスはコンベンション協会より提供、昼食会開催予定。

3) ベトナム地質学会との国際交流について(井龍)

10月にベトナム地質学会創立70周年記念行事があり、会長の出席を検討中。

(3) JIS, 標準担当 (中澤)

(4) その他

5. 編集出版部会 (山路・海野・保柳)

(1) 地質学雑誌編集委員会 (山路編集委員長)

1) 編集状況報告 (7月23日現在)。

2015年投稿論文 総数43編 [総説2(和文2)・論説23(和文21, 英文2)・報告6(和文4, 英文2)・ノート1(和文1)・口絵3(和文2・英文1)・巡検案内8] (昨年比 -1)

査読中：26

受理済み：7 (うち巡検案内2)

・121巻7月号：巡検案内書(4, 5, 6, 8班)計72頁, 7/24校了, 8/3発送予定

・121巻8月号：巡検案内書(1, 2, 3, 7班)掲載予定。入稿準備中。

2) 長野大会巡検案内書について

・長野大会巡検案内書を, 121巻7, 8月号本誌に掲載し(白黒印刷), 冊子発行と同時にJ-STAGE上でカラー版を公開することとした。CD-ROMは作成しない。なお, 頁超過およびJ-STAGEでのカラー図差替費用の著者負担はなしとする。

3) 投稿編集出版規則の改正について

(2) アイランドアーク編集委員会 (海野)

1) 編集状況

Vol. 24 Issue2 (2015年6月)：一般原稿10編, Rehman特集1編, Carbonate特集1編, エラータ1件で発行

2) オンライン投稿の状況

過去半年(2015.1.20～2015.7.20)の投稿数61件。うち新規投稿51件。

3) その他

・2014年インパクトファクターは1.148と発表された(2013年：1.055)。分野の順位は175誌中125位。

・Volume 24, Issue 2 の出版の遅れについて

Issue 2 は通常は出版予定月の前月末（5 月末）までに出版されるが、6 月末の出版となった。原因は、Wiley に入稿してから初校が来るまでに時間がかかり、さらにその後の著者校正等の校正作業にも遅れがあったためである。Wiley には校正刷り作成までの日数を短縮するよう改善を求めた。

（3）企画出版委員会（保柳）

1）長瀨たんけんマップについて、再検討の結果、リーフレット観光の目的に照らして、内容が難しいとの判断から、再度修正の要請をして著者に返却した。

2）大島三原山たんけんマップについては、著者の中に火山の専門家も参加していることなどを確認し、概ね問題がないとの結論に至った。ただし、読者層や販路及び販売方法等について著者に確認することとした。9 月の理事会に諮ることとした。

3）城ヶ島たんけんマップは増刷することとした。

6. 社会貢献部会（平田・杉田・廣木）

・「地質地盤情報活用推進基本法（仮称）」について

上記基本法の制定に向け、自民党国土強靱化総合調査会事務局長の福井照衆議院議員に面会し、説明をおこなったとの、地質地盤情報活用推進協議会地質地盤情報活用検討委員会の松浦委員より文書の報告があった。また、同協議会の 26 年度事業報告ならびに 27 年度活動計画について報告された。

7. 地質の日

来年度の企画として国会議事堂周辺の石材見学を検討中。

8. 地質研修

東京大学千葉演習林にて 6 月 25 日に利用者説明会にて地質研修を報告。秋は 11 月 10～13 日に実施予定。大会後に募集を開始する。

9. ジオパーク支援委員会（平田）

・JGC 報告。審査状況の説明があった。

・長野大会で夜間集会を開催し、今後の支援の在り方について意見交換を行う。

・地震火山サマースクールへの共催負担金について

前年度の収支では余剰金が多く出たため、共催 3 学会に分配返金されることとなった。地質学会には 138,420 円の返金があり、それを今年度負担金の一部に回すこととして、今年度の実質的支出は差額の 61,580 円とした。

10. 地学オリンピック支援委員会（平田）

（1）支援委員会からの報告事項

1）日本代表生徒の通信研修に本委員会の委員が協力中

2）地質学会が第 8 回日本地学オリンピックの作問委員を推薦

（2）地学オリンピックの最近の動向

1）5 月 30 日～31 日に秩父地方にて日本代表合宿研修を実施（地質学会会員も個人的に協力）

2）8 月 7 日～9 日に筑波大学にて日本代表合宿研修を実施予定（地質学会会員も個人的に協力）

3）9 月 13 日～20 日、第 9 回国際地学オリンピックブラジル大会がポソス・デ・カルダスで実施予定

4）第 10 回国際地学オリンピック日本大会（三重）への寄付金（協賛金）が目標額 2400 万

円に達した。

11. 中期ビジョン委員会（坂口）早急にまとめる。

以上

2015年7月25日

一般社団法人日本地質学会執行理事会
会 長（代表理事）井龍康文
署名人 執行理事 齋藤 眞